

監事監査報告書

令和 6 年 5 月 16 日

学校法人 清風明育社
理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

学校法人 清風明育社

監事 白鳥勝彌

監事 田中祥光

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人清風明育社寄附行為第 18 条の規定に基づき学校法人清風明育社の令和 5 年度（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日）の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは、監査にあたり、理事会及び評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人清風明育社の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に反する重大な事実はないものと認める。

以上

財 産 目 録

1. 資産総額	1,445,178,386 円
I 固定資産	1,254,071,791 円
II 流動資産	191,106,595 円
2. 負債総額	836,696,031 円
I 固定負債	345,064,200 円
II 流動負債	491,631,831 円
3. 正味財産 (1 - 2)	608,482,355 円

内 訳

1. 資産総額	1,445,178,386 円
I 固定資産	1,254,071,791 円
土 地	562,796,284 円
建 物	350,768,961 円
建 物 付 属 設 備	214,411,032 円
構 築 物	106,441,219 円
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,256,160 円
管 理 用 機 器 備 品	12,047,802 円
図 書	1,407,833 円
電 話 加 入 権	507,200 円
保 証 金	4,435,300 円
II 流動資産	191,106,595 円
現 金 預 金	158,585,449 円
未 収 入 金	6,349,326 円
短 期 貸 付 金	1,694,453 円
前 払 金	14,420,200 円
立 替 金	43,500 円
仮 払 金	10,013,667 円
2. 負債総額	836,696,031 円
I 固定負債	345,064,200 円
長 期 借 入 金	345,064,200 円
II 流動負債	491,631,831 円
短 期 借 入 金	74,936,200 円
未 払 金	24,839,649 円
前 受 金	306,973,100 円
預 り 金	73,930,942 円
仮 受 金	10,951,940 円

令和5年度
事業報告書

(令和6年5月)

学校法人 清風明育社
清風情報工科学院

I. 法人の概要

(1) 教育の方針と理念

(教育の方針)

日本の伝統的信仰に立脚し、「徳・健・財」3拍子揃った姿で世の中に尽くす人材に育てる

(理念)

- ・ 達成力を育て、自信と喜びを与える学校
- ・ 社会から安心・信頼・尊敬される人材を育てる学校
- ・ 徳・健・財を兼ね備え、世直しに取り組む人物を育てる学校
- ・ 教育を通じて教職員が使命を達成する学校

(2) 学校法人の沿革

- 昭和 63 年 3 月 学校法人オージー総合学園 設立
 4 月 オージスコンピュータ学院専門学校 開校
 平成 14 年 4 月 学校法人清風明育社に名称変更
 清風情報工科学院に名称変更
 平成 15 年 4 月 工業専門課程情報メディア学科(2 年制)
 「専門士」付与課程認定 (文部科学大臣認可)
 文化・教養専門課程 日本語科 開設 (大阪府知事認可)
 平成 18 年 6 月 工業専門課程総合コンピュータ学科(4 年制)
 「高度専門士」付与課程認定 (文部科学大臣認可)
 平成 25 年 4 月 工業専門課程コンピュータ総合学科(2, 3, 4 年制)
 「職業実践専門課程」認定 (文部科学大臣認可)
 平成 27 年 10 月 日本語教師養成講座 (別科) 開講
 令和 3 年 4 月 工業専門課程 グローバル IT 学科 開設
 令和 5 年 10 月 新館竣工

(3) 設置する学科等および学生数の状況 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	総定員	在籍数
工業専門課程	デザイン・コンピュータ学科 (4 年制)	4 年	20 名	80 名	19 名
	デザイン・コンピュータ学科 (3 年制)	3 年	40 名	120 名	182 名
	デザイン・コンピュータ学科 (2 年制)	2 年	30 名	60 名	73 名
	グローバル IT 学科 (2 年制)	2 年	40 名	80 名	48 名
	小 計		130 名	340 名	322 名
文化・教養専門課程	キャリア専攻科	1 年	40 名	40 名	12 名
	日本語科 2 年コース	2 年	56 名	112 名	133 名
	日本語科 1 年半コース	1 年半	56 名	112 名	70 名
	小 計		152 名	264 名	215 名
	計		282 名	604 名	537 名

(4) 理事・評議員の概要 (令和5年5月1日現在)

	定員	現員数	氏名等
理事	6名	※5名	平岡 龍人 (学校法人理事長) 平岡 憲人 (専務理事 清風情報工科学院校長) 森 寛勝 (宗教法人代表役員) 工藤 将人 (無職) 濱田 正勝 (学校法人職員)
監事	2名	2名	的場 勝彌 (会社役員) 田中 祥宏 (NPO 法人理事長)
評議員	13名	13名	平岡 龍人 (理事長) 平岡 憲人 (専務理事 清風情報工科学院校長) 綱崎 勝 (会社員) 橋本 俊洋 (会社員) 森 寛勝 (理事 宗教法人代表役員) 石岡 信吾 (無職) 井貝 陽重 (会社役員) 左藤 章 (学校法人理事長、元衆議院議員) 森井 英一 (医師) 松久 宗英 (医師) 一階 良知 (IT塾長) 神前 良行 (学校法人職員) 高村 幸一 (学校法人職員)

※ 北村太道理事 令和5年4月28日逝去により、理事1名欠員

(5) 教職員の概要 (平成5年5月1日現在)

	常勤	非常勤	合計	備考
教員	22名	31名	53名	
職員	29名	4名	33名	
合計	51名	35名	86名	

II. 事業の概要

(1) 事業の目的・計画及び進捗状況と今後の取り組み

① デザイン・コンピュータ学科

今年度は115名の入学生を迎え、在籍学生が275名と過去最大人数となりました。学生数の増加と完全リアル登校によって学校内に学生が溢れ、大変良い雰囲気となりました。学生数増加に伴い、教室の壁を取り払い、可動間仕切りを設置して教室に収容できる人数を増やして授業を実施しました。

また、昨年度までオンラインでの開催だったシリコンバレー研修も現地での開催となり、8月27日から9月2日に行われ4年ぶりにアメリカの大地に降り立ちました。

当校では、1年間の物作りの集大成として、毎年1月末に卒業進級制作発表会を開催しています。卒業進級制作は、原則3~5名でチームを組んで一つの作品を作り上げます。1年生の前期半年間はぐるぐるで基礎基本を学び、後期から本格的に作品制作に取り組みます。今年度は、100社を超える企業が参加していただき、学生たちの作品を見ていただきました。

就職に関しては、就職率は98.6%。今年度もまた資格取得や授業課題、進級

制作を計画的に進め、結果に繋がった学生たちが自信をつけ、2月のスタートダッシュに成功し、5月の連休前に多くの内定を獲得していました。国内で初めてIP インターネットサービスを提供して東証プライム市場に上場している大手電気通信事業者インターネットイニシアティブ(IIJ)をはじめ、大手グループ企業から多くの学生が内定いただきました。久しぶりに関西電力グループとの縁も繋がりましたし、全国に求人情報誌「ディスター」を発行している大新社とも新たな縁ができました。複数社から内定を獲得した学生も少なくありませんでした。

◎ 今後の取り組み

デザイン・コンピュータ学科では学生が選択している年制が2年制・3年制が多く、3年制を選択している学生が7割ほどですが、4年制を選択すると卒業時に高度専門士の資格がとれることとあわせて、4年生にならないと受けられない特別講座や海外研修の費用を一部負担するなどのメリットを打ち出し、今後4年制の学生を増やすべく令和7年度に向けて調整していきたいと思えます。

今年度の作品制作でも多くの学生が生成AIを作品制作に組み込み、プログラムやデザイン以外の部分を強化することに成功したチームが多く見受けられました。授業では従来通りの基礎基本を学ぶことを大前提としながら、生成AIを組み込むことで、幅広い作品制作の可能性が広がると思えます。

② グローバルIT学科

昨年度は圧倒的にN3レベルのベトナム、ミャンマー等の国の学生が各日本語学校を占めていましたが、コロナの影響により、関西を中心に経営に苦しんだ多くの各日本語学校がN5レベルのネパール、バングラディッシュ等の国を受け入れ経営を維持したため、日本語能力が各学校で低迷しました。

同国の市場での生徒全体の分母が圧倒的に増え、グローバルIT学科が求めるN3以上レベルの学生が少なく、また今年度は各大学が水準を下げN4レベルでも合格を多く出した為、グローバルの辞退数の殆どが併願で大学に進学し流出しました。また、各学校のN3以下のレベルは特定技能か帰国。グローバルの出願資格をクリアしている学生の出願人数こそ定員の40名を上回ったものの、実際の試験で不合格者が多く続出し苦戦しました。

◎ 今後の取り組み

就職率は1期生・2期生共に100%と好調。グローバルIT学科が次年度5年目に突入するうえで、まだまだ関西でも浸透していないため、いかにこの就職率の良さをどう上手くPRしていけるかが何よりも広報活動をする上で重要と思えます。SNS等を含むあらゆる確度からのPRを行っていくことが必須であると考え、今後は知名度よりも認知度にフォーカスを当て活動を行い、GITのブランディング構築に向け取り組んでいきます。

③ キャリア専攻科

今年度は卒業生が例年より多く受験競争が厳しいと予測されおり、早い時期からオープンキャンパスに参加する学生も多く、キャリアでは過去最高の参加人数となりました。また学力に自信がなく早々と進学を見送る学生や、3月になっても大学受験に失敗した学生や進路の決まらない学生の間い合わせが続きました。次年度は日本語学校が定員調整の為受入れ人数を減らした学校が多く、卒業生が2

～3 割減となる見込で、その為本年度より専門学校や大学に合格しやすくなり、キャリアに流れる学生が減少し募集が厳しくなるのではと推測されますので、次年度は次の対策を進めます。

- コロナ下で開校した新規校からの卒業生に、ガイダンスをきっかけとした接点を作り新規の実績につなげる。
- 留学生の数は回復し、会場ガイダンスや校内進学説明会では学生との接点の場が増えるので、積極的に各国の先生を同行させて確実に学生を確保する。
- ガイダンスや訪問先で専門学校や大学の情報を収集し、教務に有益な進学情報をフィードバックできるように協力する。

④ 日本語科

後期から仮校舎から本校に戻っての授業運営が始まりましたが特に大きな問題は起こっておらず、概ね順調です。

進学面では、国公立など上位大学への進学者が少なく、進路未決定者の進路がなかなか決まらない状況でした。非漢字圏の学生が成績が良く、漢字圏・非漢字圏の区別が意味をなさなくなってきました。

認定日本語教育機関の参照枠に照らし合わせた授業への移行、新年度4月より初級教科書を『つなぐにほんご』に変えることに決まり、Can-do プロジェクトが始動しました。日本語授業に関わる全ての先生にとって新たな取り組みの最初の1年となりました。

新型コロナの罹患者数は確実に減っていますが、代わって今冬から季節性インフルエンザが流行し始め、爆発的な広がりにはなっていないものの、留学生にとっては風邪との見極めがつかないので、疑わしい場合は必ず病院で検査を受けさせることが大事と考えます。

学生の事故は、自転車と自動車の接触事故が1件と自転車と通行人との接触事故が1件の、計2件の交通事故が発生しました。法律的にも自転車運転ルールの厳罰化が検討されており、大事故となれば留学も終わってしまうことを強く認識させていく必要があります。

◎ 今後の取り組み

学生が自ら行動するきっかけを与え、具体的な活動を実践から学ばせるため、学生が自立して準備できるための進学指導体制を目指します。

引き続き「一斉進学指導」を実施し、進学に対する知識を身に付けると共にモチベーションを高めます。クラスのレベルに分けて、学力やモチベーションに応じて実施をすることにより、学生のニーズにあった指導が行える体制を目指します。

カリキュラム変更等学内の変化、日本語教育機関の制度改正に対応することが求められる今、専任がこれまで以上に連携し、議論しながら日本語科を運営していきます。

認定日本語教育機関の申請に向けて体制を整えるため、5技能をバランスよく伸ばせるよう従来からの大幅なカリキュラムの整備、明確な評価設定と実践、Can-do の議論と整備、「日本語教育機関の参照枠」の理解を深めるための活動の継続を進めていきます。

(2) 施設等の状況

① 所在地

大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号

② 主な施設設備の状況（令和5年5月1日現在）

施設設備	面積	備考
校地	1,572.45 m ²	校舎敷地 1,478.04 m ² その他 94.41 m ²
校舎	2,711.46 m ²	※ 新校舎 845.15 m ² を追加

※ 新校舎の竣工は令和5年10月ですが、記載面積は令和4年12月6日付 校舎変更届と合致させています。

(3) その他

① 日本語教師養成講座（別科）

16期生	令和5年4月開講	28人
17期生	令和5年10月開講	16人

② ウクライナ人学生支援

当校は、ウクライナ避難民に対して日本語教育を無償で提供している「ウクライナ学生支援会(JSUS)」の活動を支援する日本語学校グループの代表校として活動しています。

当校に対しても、ウクライナ人学生支援の目的で、寄付が寄せられています。

Ⅲ. 財務の状況

(1) 決算の概要

令和5年度においては、デザインコンピュータ学科の複数年コース（2年・3年制）への変更学生増加、日本語学科においても同様な動きにより、学生生徒等納付金収入は大幅に増加しました。一方、学生増加に伴う教員の増加等により、人件費と教育研究費も増加しましたが、ひかりビル（阿倍野区昭和町）の賃貸が終了し費用の削減が図れ、賃借料を中心に諸経費の削減が功を奏して経常収支差額が大きく増加しました。

資金収支面では、新校舎建設資金借入返済と運転資金の調達について、金融機関と協議を重ねていますが、融資について前向きな姿勢を示されており、懸念される状況はありません。

(2) 経年比較

（次ページ掲載）

① 資金収支計算書

(単位：千円)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
学生生徒等納付金収入	384,373	350,559	336,588	486,905	568,344
手数料収入	4,245	4,057	2,485	4,330	7,650
寄附金収入	0	0	0	19,621	0
補助金収入	3,817	1,046	0	990	38,466
資産運用収入	0	0	0	150	0
事業収入	29,512	35,830	27,764	18,757	22,578
雑収入	2,822	3,582	8,305	10,419	6,994
借入金等収入	0	0	110,000	50,000	600,000
前受金収入	221,860	266,629	292,228	293,285	306,573
資金収入調整勘定	▲253,675	▲303,250	▲246,046	▲259,929	▲318,883
その他の収入	169,245	160,932	234,813	287,812	211,186
前年度繰越資金	154,511	130,148	87,621	228,249	163,536
収入の部合計	716,712	649,534	853,770	1,140,589	1,606,444
人件費支出	237,808	251,578	275,999	320,852	345,726
教育研究経費支出	100,266	98,068	78,153	121,233	149,514
管理経費支出	68,978	67,947	53,052	99,606	99,694
借入金等利息支出	0	0	504	813	3,154
借入金等返済支出	0	0	30,000	0	310,000
施設関係支出	46,554	4,510	▲1,785	168,908	341,218
設備関係支出	339	0	1,258	0	12,473
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	168,269	165,661	226,439	309,676	228,912
資金支出調整勘定	▲35,653	▲25,853	▲38,100	▲44,036	▲42,832
次年度繰越資金	130,148	87,621	228,248	163,536	158,585
支出の部合計	716,712	649,534	853,770	1,140,589	1,606,444

(注) 数値は、切り捨てで表記しています。

② 事業活動収支計算書

(単位：千円)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
教育活動収支	学生生徒等納付金	384,373	350,559	336,588	486,905	568,344
	手数料	4,245	4,057	2,485	4,330	7,650
	寄附金	0	0	0	0	0
	補助金	0	1,046	0	990	35,722
	付随事業収入	29,512	35,830	27,764	18,757	22,578
	雑収入	2,818	3,567	8,305	10,419	6,993
	教育活動収入計	420,949	395,060	375,143	521,401	641,287
	人件費	237,808	251,578	275,999	320,852	345,726
	教育研究経費	100,266	98,068	78,153	113,212	149,514
	管理経費	82,004	82,792	67,242	113,822	115,534
	その他支出	▲2,490	0	0	184	0
	教育活動支出計	417,589	432,441	421,395	548,070	610,774
	教育活動収支差額	3,360	▲37,380	▲46,251	▲26,668	30,513
	教育活動外収入	3	14	21,821	28,823	27
教育活動外支出	0	0	22,298	29,442	3,154	
教育活動外収支差額	3	14	▲477	▲619	▲3,127	
経常収支差額	3,364	▲37,365	▲477	▲27,288	27,386	
特別収入	3,817	0	0	25,856	2,744	
特別支出	9,622	10,000	7,599	25,179	27,728	
特別収支差額	▲5,805	▲10,000	▲7,599	677	▲24,984	
基本金組入額	▲58,426	0	0	0	▲10,000	
当年度収支差額	▲60,867	▲47,365	▲54,328	▲26,611	▲7,596	

③ 貸借対照表

(単位：千円)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
固定資産	827,886	807,550	785,233	946,649	1,254,072
流動資産	180,488	137,121	276,626	201,092	191,107
資産の部合計	1,008,375	944,672	1,061,859	1,147,740	1,445,178
固定負債	0	0	80,000	80,000	345,064
流動負債	273,990	257,653	349,169	461,661	491,632
負債の部合計	273,990	257,653	429,169	541,661	836,696
基本金	1,070,282	1,070,282	1,070,282	1,070,282	1,070,277
繰越収支差額	▲335,897	▲383,263	▲437,592	▲464,203	▲461,795
純資産の部合計	734,384	687,018	632,689	606,079	608,482
負債及び純資産の部合計	1,008,375	944,672	1,061,859	1,147,740	1,445,178